

3級【シーチング組み立て】傾向と対策

色が付いていない箇所は常に気を付けていただきたい箇所となります。青く印した箇所は今回のデザインで関係ある箇所です。

シーチングの組み立ては、ただパーツが組み合わさっていればいいわけではない。業務として考えると、他の人が見て実物の商品が想像できるものでなくてはならない。デザイン画にあるパーツ全てそろえるとともに、実物の形状と同じ形に組むことが最も大切なことである。普段から手を抜くことなく、繰り返し練習を積んでいただきたい。

以下の項目は、求めているレベルに達していない又は未完成のため不合格の対象となるので注意する。

- ① シーチング組み立ての着せ付けの不備。(身頃の中心を合わせて着せ付けていない)
- ② 前端、裾、袖口が折られていない。(一部落ちていても×)
- ③ 衿または袖が付いていない
- ④ 構造線が違う。
- ⑤ 試験問題に記載された着丈と著しく違う場合。

<地直し・布目>

地直し	①	地の目通りに線を入れ、縦横が直角になるようにアイロンをかける。 (シーチングの地直しが不完全なためにシルエットがうまく出せないこともある)
事前準備	①	適切な 厚みや大きさ のシーチングを正確に地直しし、しわの出ないように持参するよう心がける。
	②	試験前の準備がきちんとできていれば試験中の作業にも余裕が出来、より完成度の高い仕上がりが期待できるように思う。

<身頃>

構成	①	原型操作の段階でダーツ量の分散が正しく行われていないときれいにシルエットが表せない。
	②	切替え線は、適切なラインが描けていないとピン打ちしても思い通りのシルエットにならない。切替えの位置やカーブ、上がり寸法を意識し、デザイン通りに描けるようしっかり練習して試験に臨んでいただきたい。
	③	今回のデザインはプリンセスラインで、胸ぐせダーツや後ろ肩ダーツの分量を切替えで処理するとともに、ウエストのシェイプも表現することになる。

<身頃>		
ピン組立て	①	ピンの間隔や打つ位置もシルエットに大きく影響する。どこにピンを打つべきか、どのくらいの間隔でピン打ちするかよく考えて組み立てる。
	②	シーチングの縫い代を片倒しの状態にピン打ちする場合、どちら側を上に乗せるかについても正解があるわけではなく、結果としてシーチングが美しく表現されていればよい。 (一般的には片返し処理をして縫製するときと同じ方向に倒すことが多い。)
	③	プリンセスラインの組み立ては中心側の縫い代を折り、脇側の出来上がり線にのせてピン打ちをする。中心側を高くして組むことで脇側が奥に行き、視覚的にスリムに見える。
		
縫い代処理	①	前端や裾、袖口は出来上がりに折り、縫い代が出てこないようにある程度ピンで止める。
	②	折られていなければ未完成として不合格になるので注意する。
着付け	①	前中心・後ろ中心を合わせシーチングが着崩れないように、必要な箇所にピン打ちをする。ボディの肩にかけているだけのシーチングは完成していないと見なされるので注意する。
	②	右身頃は着ている状態にするため、固定するピンは打たない。固定するピンは持ち出しに打つ。
	③	固定するピンもどこに打てばシルエットを安定させて着せられるかよく考えてピン打ちする。
<ボタン (身頃) >		
バランス	①	今回は均等な間隔で5つのボタンが付いていた。バストの膨らみやウエストのシェイプ位置などから読み取り間隔を決めてボタン付け位置を決める。
表現	①	配点の対象ではないが、ボタンホールも記入し実物縫製した時の雰囲気表現できるようにしていただきたい。模範解答のようにボタンを上から付けると付け位置が隠れてしまうので、ボタンにも十字の印を入れるか、ボタンホールを身頃に記入し付け位置も明確に表現していただきたい。

＜衿・衿付け＞	
構成	① 今回はフラットカラーの衿であった。衿腰が低い衿の構造を理解していないものが多くあった。デザイン画通りの形状になるよう事前練習を十分行う必要があったと思う。
地の目	① 地の目の取り方も、本来のシーチング組み立ての目的であるパターン修正に適した方が望ましい。フラットカラーの場合、衿幅が広くカーブがきついので、後ろ中心に地の目を通した方が安定し適切と思われる。
ピン組立て	<p>① 衿の外回りは縫い代を付けて裁断し、縫い代が浮き上がらないようにアイロンでしっかり折って組み立てる。その際、カーブがきつく折りにくいようであれば、ぐし縫いをし縫い代を縮めてアイロンをかける。今までは衿の外回りの縫い代は裁ち切りでもよいとされていたが、裁ち切りにしないで、必ず折って組み立てをしていただきたい。出来上がりにカットしてしまうと形状が崩れてしまうので、今後は出来上がりに切った衿に関しては、減点扱いにするので注意する。フラットカラーの衿付け線のピン打ちは、衿腰の邪魔にならないように縫い代を折らず身頃の衿ぐり出来上がり線と重ね、出来上がり線上にピンを打つ。その際に、身頃の衿ぐりの縫い代が首につかえている場合は、切り込みをいれなじませてから衿付けをする。</p> 

<袖・袖付け>

ピン組立て	<p>① 袖山が身頃アームホール寸法より極端に大きいためいせ込めていない袖や、逆にアームホール寸法より小さいために身頃がいせ込まれてしまい身頃にしわが出ている物もあった。シャツブラウスとして適切ないせ分量になるよう作図の段階で確認すべきである。</p>
	<p>② 袖付けのピン打ちは、縫い目線の際を袖付け線に沿って平行に止めるが、ピン打ちの不備のために袖のシルエットを崩してしまったものがあった。</p>
	<p>③ きれいに袖付けするためにも合い印を忘れずに入れ、きれいな袖付けがスムーズにできるよう心掛けたい。</p>
	<p>④ 今回の絵型は身頃の袖ぐりにステッチがないのでイセの少ない袖高のセットイン袖として読み解けるが、身頃高になっている物もあった。許容の範囲ではあるが、身頃に無理がかかりしわの原因になっている。</p>
	

<ステッチ>

描き方	<p>① パターン上のステッチはパターンの端と端に記入されていけばよいが、シーチング組み立てにおいてはすべて記入されていなければならない。</p>
	<p>① ステッチ幅違い、ステッチが途中までのものは不備とみなされ、減点される。</p>